白糠町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

白糠町は、北海道東部に位置し、太平洋沿岸に沿って東西に国道38号及びJR根室本線が、また、北部を道東自動車道が走っている。面積は773.13㎢、人口は7,710人であり、人口の多くが沿岸に集中している。

昭和58年に旧国鉄白糠線が廃止となり、代替交通として、平成30年3月末まで町営バスにより沿線を運行していた。

車に頼った生活への変化、急速な人口減少や少子高齢化の進展などの要因により、公共交通利用者が減少し、公共交通を取り巻く環境は更に厳しさを増している。将来的に地域公共交通が成り立たなくなることが懸念される。

一方、高齢化社会の中で、住民だれもが生き活きと外出し、活動できる移動手段の確保の重要性はますます高まっている。

公共交通を取り巻く現状と課題と多様化する住民ニーズをしっかりと認識し、利便性のある公共交通ネットワークの再編を図るため、平成28年度に策定した「白糠町地域公共交通網形成計画」に基づき、町民の持続的な生活の足を確保するため、町内公共交通を継続的に確保・維持するものである。

地域公共交通の現況

・JR根室本線
（白糠駅、西庶路駅、庶路駅）
・くしろバス株式会社
（白糠線、鶴ケ岱線）
・スクールバス住民利用
（和天別沢）
・タクシー（全域）

白糠町地域公共交通会議開催状況

■令和2年7月10日
地域内フィーダー系統確保維持計画について、書面会議により開催し合意

■令和4年1月21日
地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金、車両減価償却費国庫補助金）に係る事業評価（案）について、書面会議により開催

生活交通確保維持改善計画の目標

・市街地コミュニティバスの利用者数　令和3年度目標　11,800人
・市街地における公共交通利用圏域　令和3年度目標　75.0%
・山間部における公共交通の利用者数　令和3年度目標　1,935人
・バス交通への満足度　令和3年度目標　55%
・車両減価償却費補助の目標　運行補助と同様

令和３年度　事業概要

⑴茶路沢コース（右股～白糠駅・白糠高校・清和園）
運行便数　（月曜日～金曜日）8便、（土曜日）4便
運賃　200円（定時定路線区間）、200円～500円（デマンド区間）

⑵庶路沢コース（上庶路～白糠高校・清和園）
運行便数　（月曜日～金曜日）6便
運賃　200円（定時定路線区間）、200円～500円（デマンド区間）

⑶庶路・西庶路市街地コミュニティバス系統1（庶路駅～白糠高校）
運行便数　（土曜日）2便
運賃　200円

⑷庶路・西庶路市街地コミュニティバス系統2（庶路駅～清和園）
運行便数　（土曜日）2便
運賃　200円

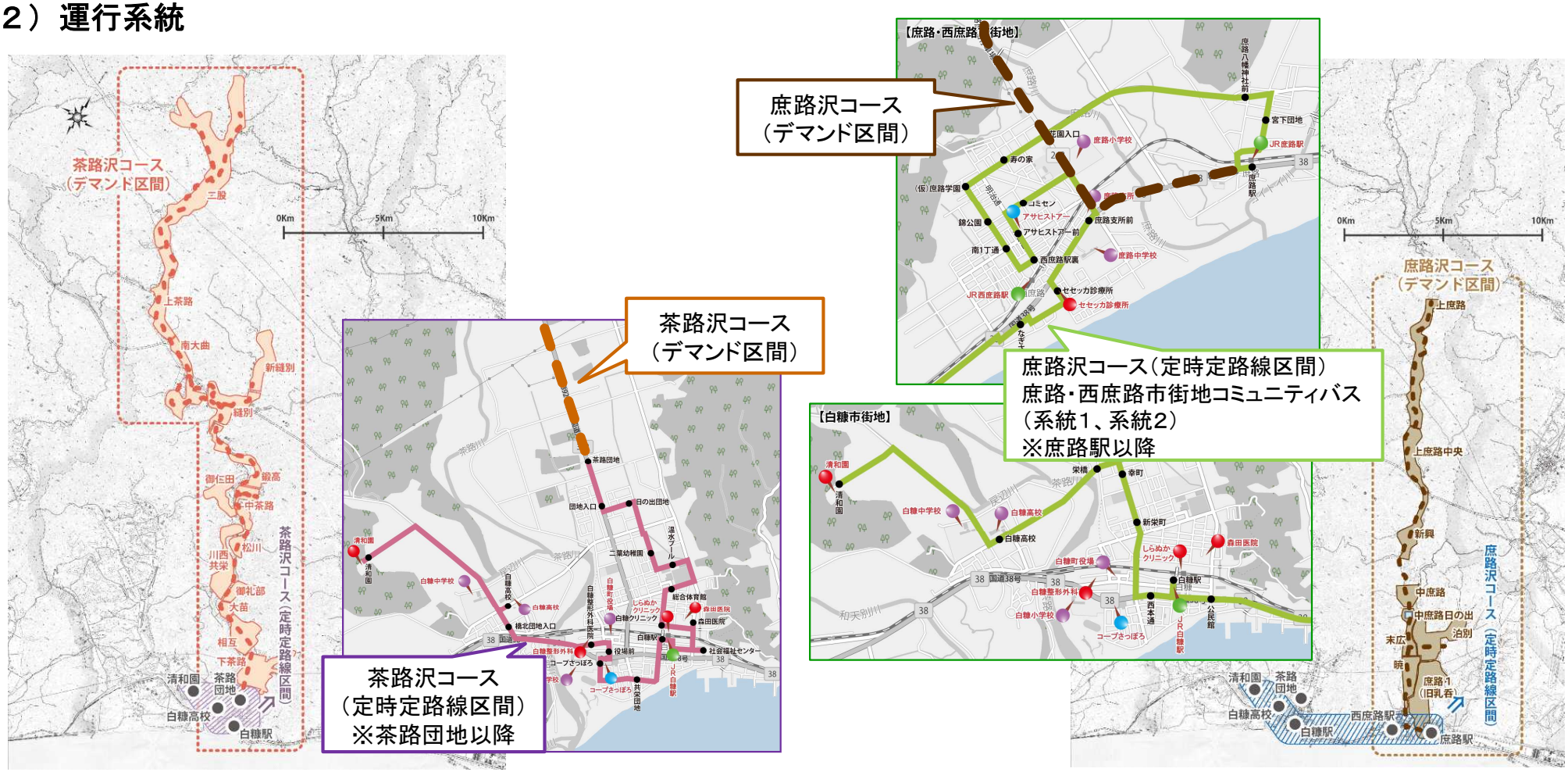
なお、⑵、⑶及び⑷で使用する車両の購入にあたっては、車両減価償却費等国庫補助金を活用する。

令和３年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

・平成28年度から平成29年度の間に実施したバス乗降調査、利用者ニーズ把握調査及び実証運行の結果をもとに、運行経路、停留所の位置、運行ダイヤ等の検討を行った。
・市街地における交通空白地域の解消のために、これまで路線がなかった地域を経由し、併せて、商業・医療・福祉施設などの生活拠点を結ぶ路線とした。
・山間部と市街地を結ぶ路線を予約制バスとし、利用実態を考慮した効率的で利便性の高い運行形態とした。
・平成30年4月から本格運行を開始。

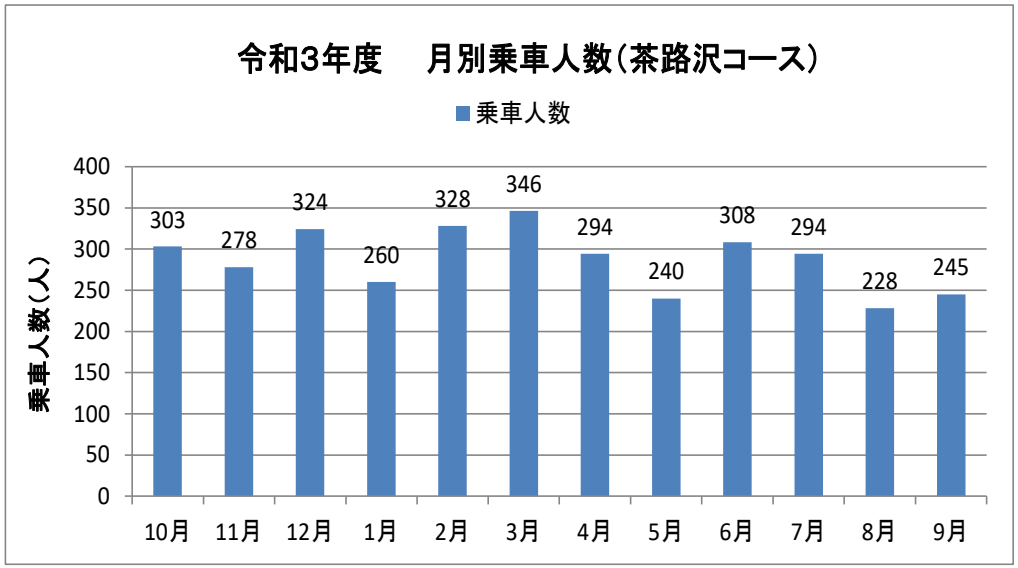
２）運行系統

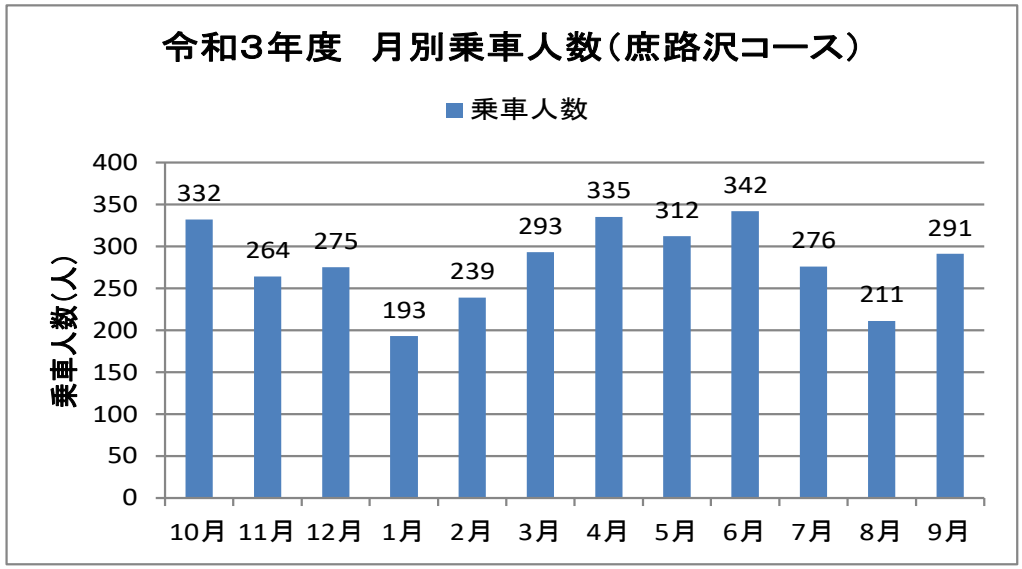


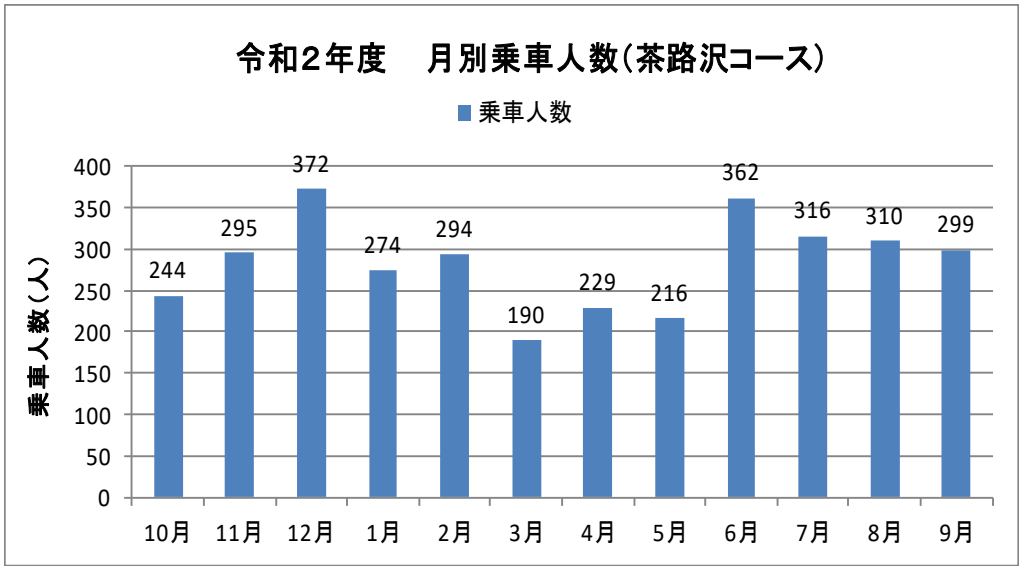
３）利用実績ー①

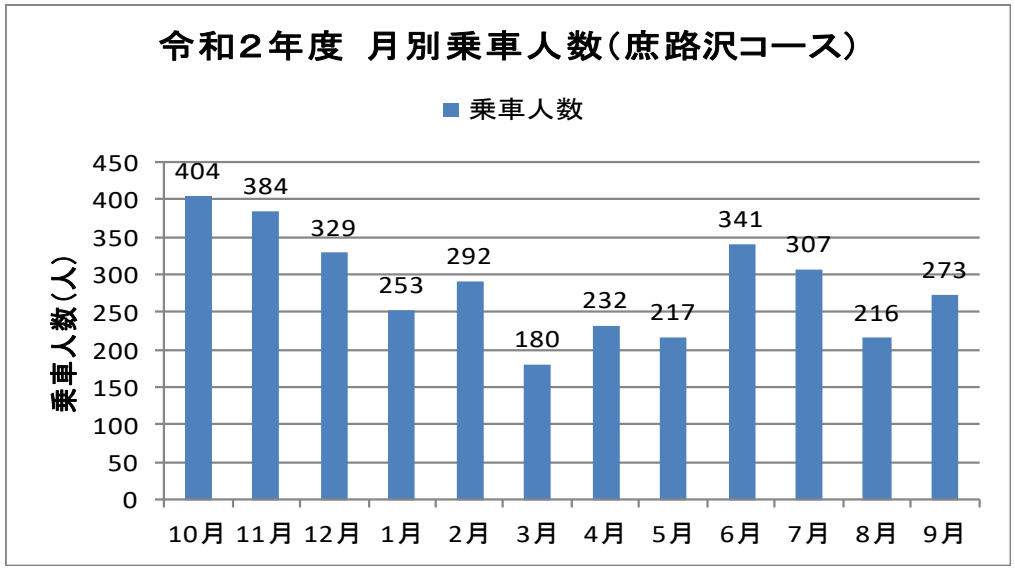
★茶路沢コース　R3 3,448人、R2 3,401人

★庶路沢コース　R3 3,363人、R2 3,428人





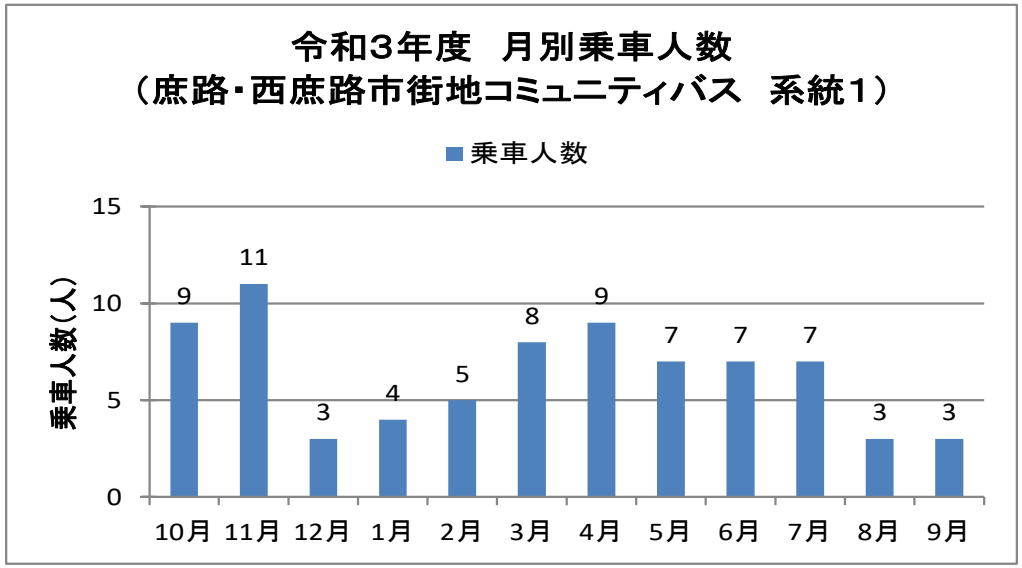


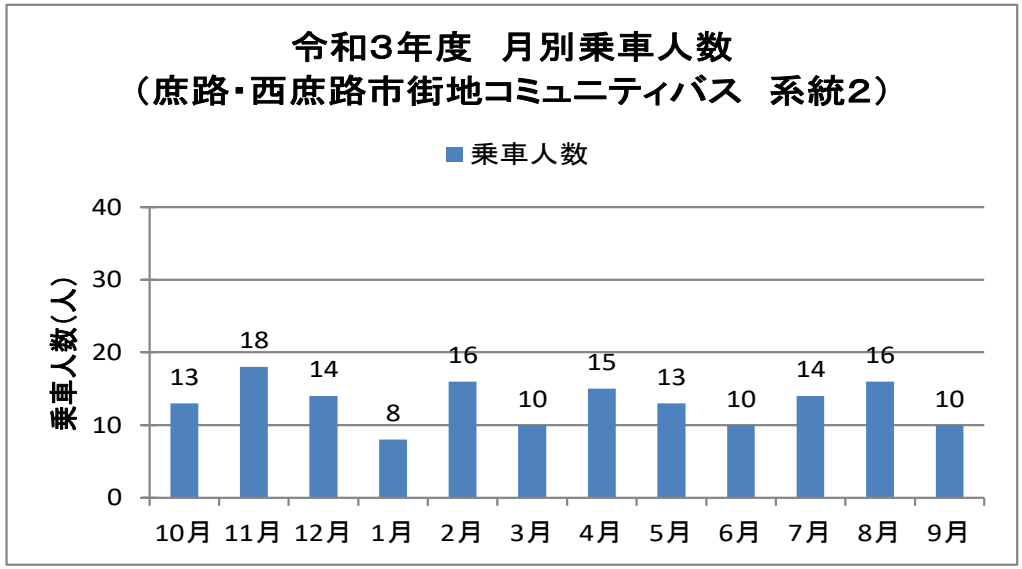


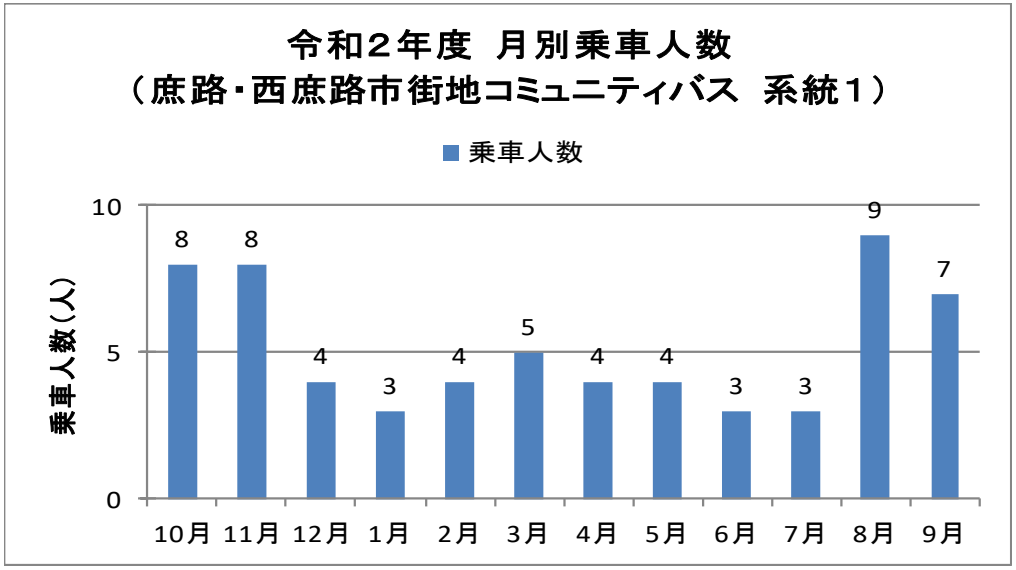
３）利用実績ー②

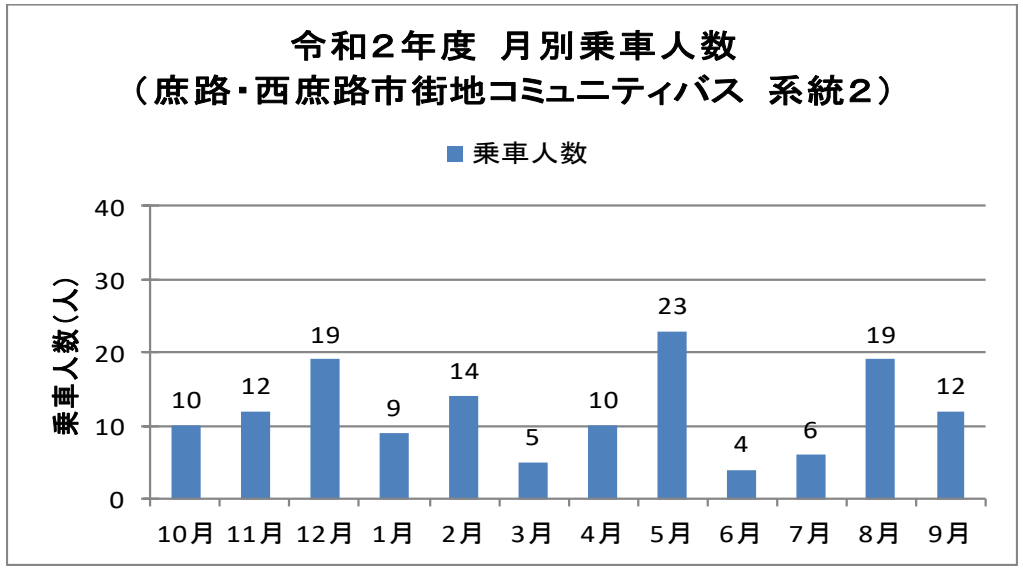
★庶路・西庶路(系統1)　R3 76人、R2 62人

★庶路・西庶路(系統2)　R3 157人、R2 143人





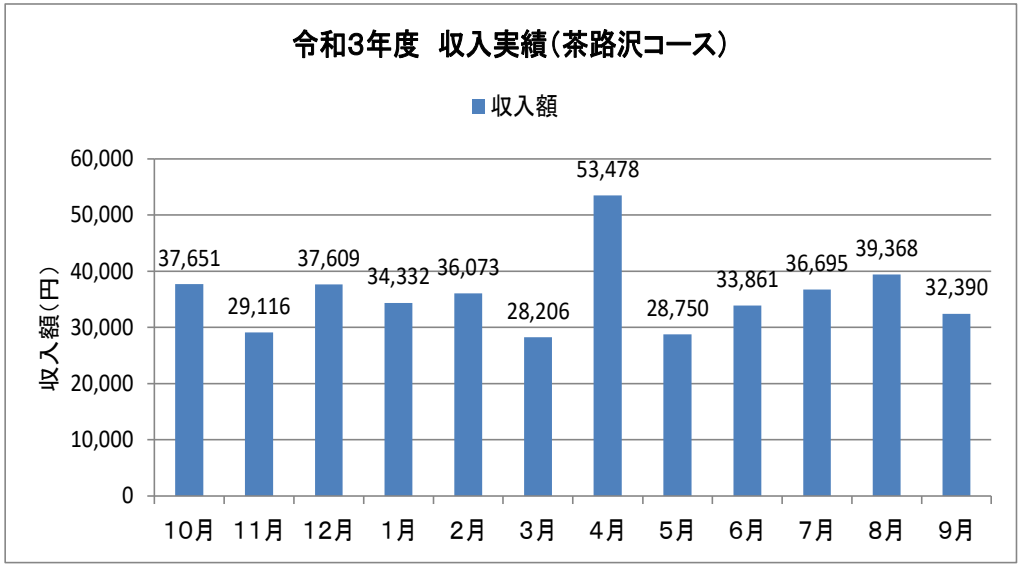


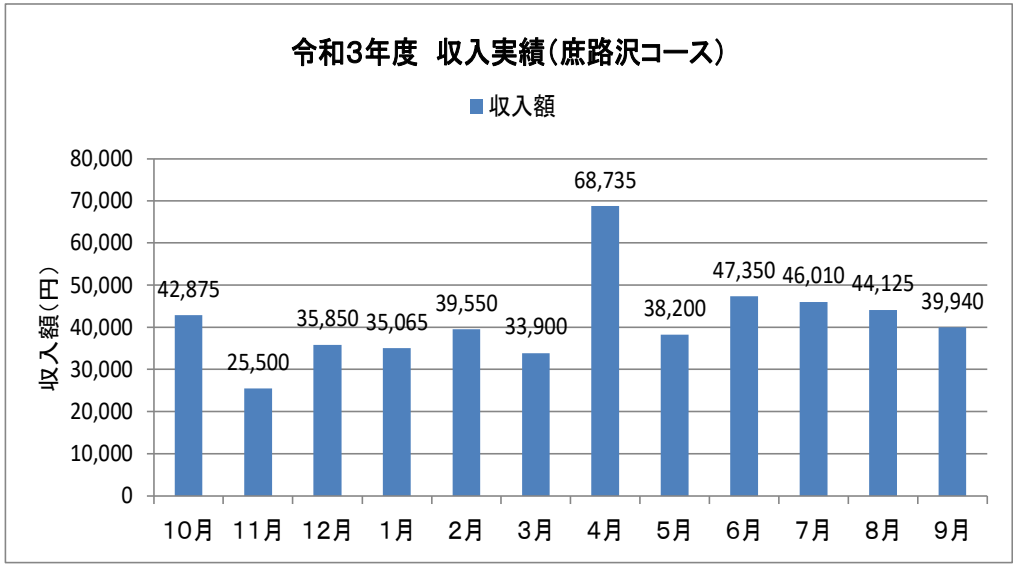


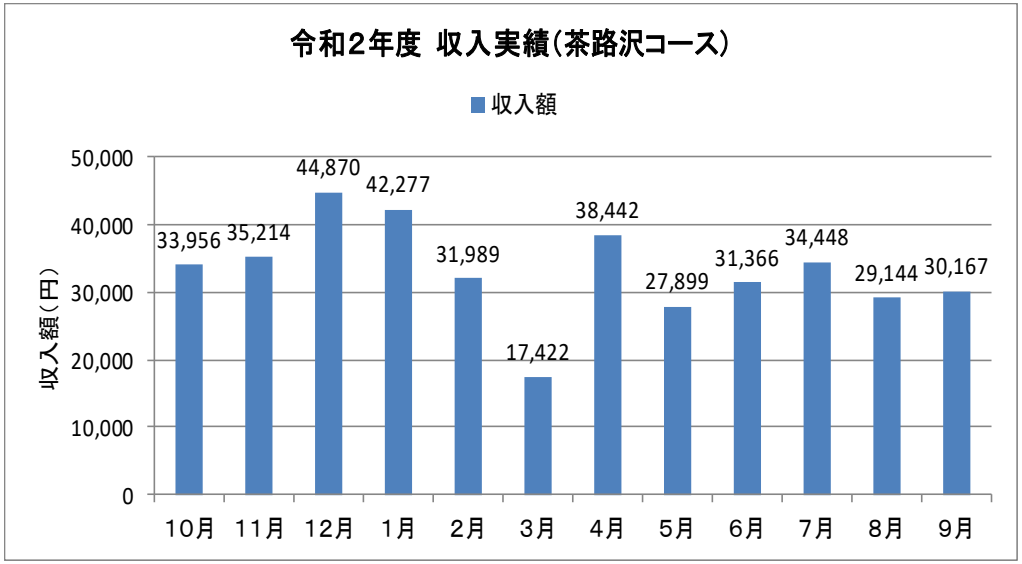
４）収入実績ー①

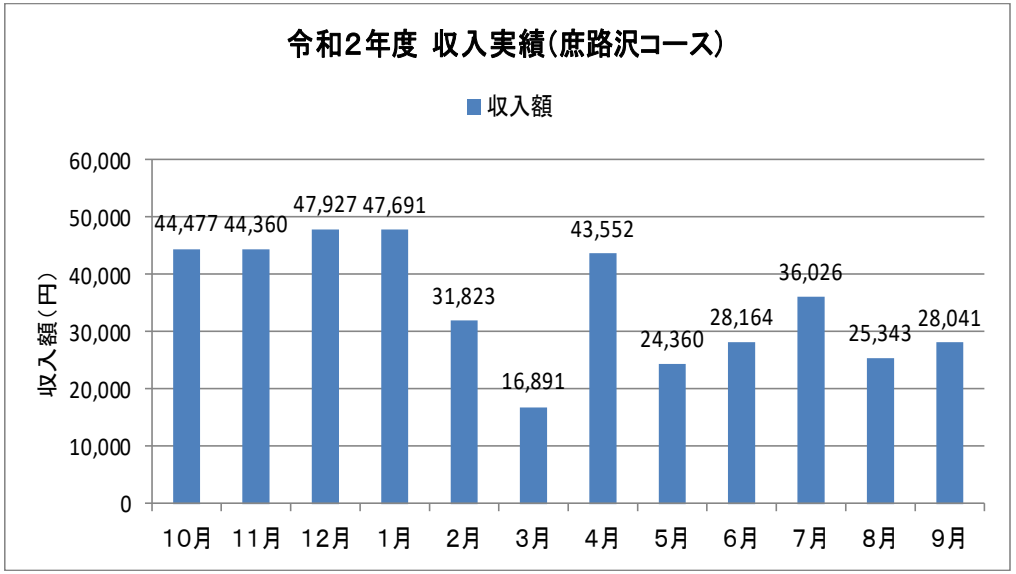
★茶路沢コース　R3 427,529円、R2 397,194円

★庶路沢コース　R3 497,100円、R2 418,655円





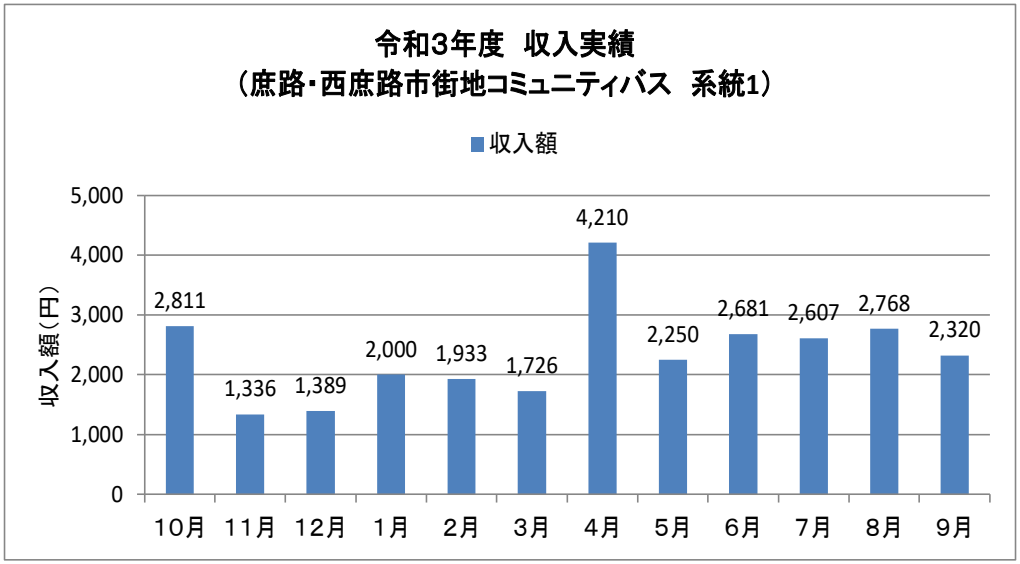


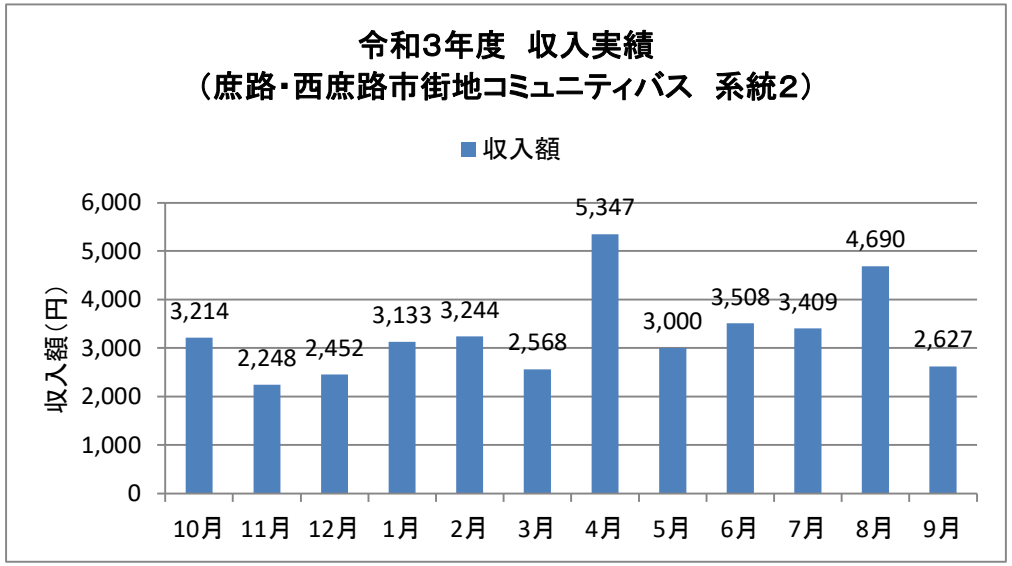


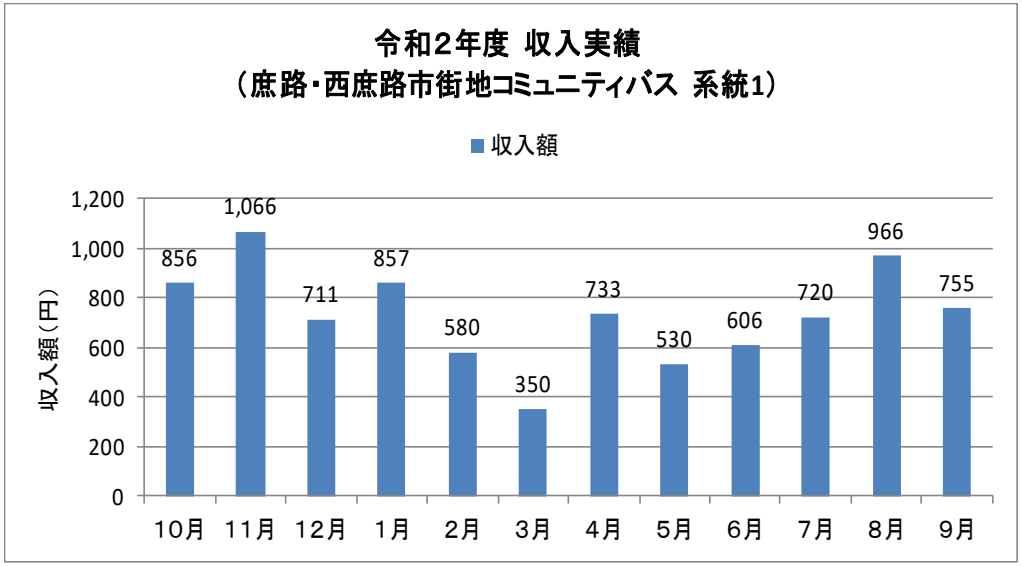
４）収入実績ー②

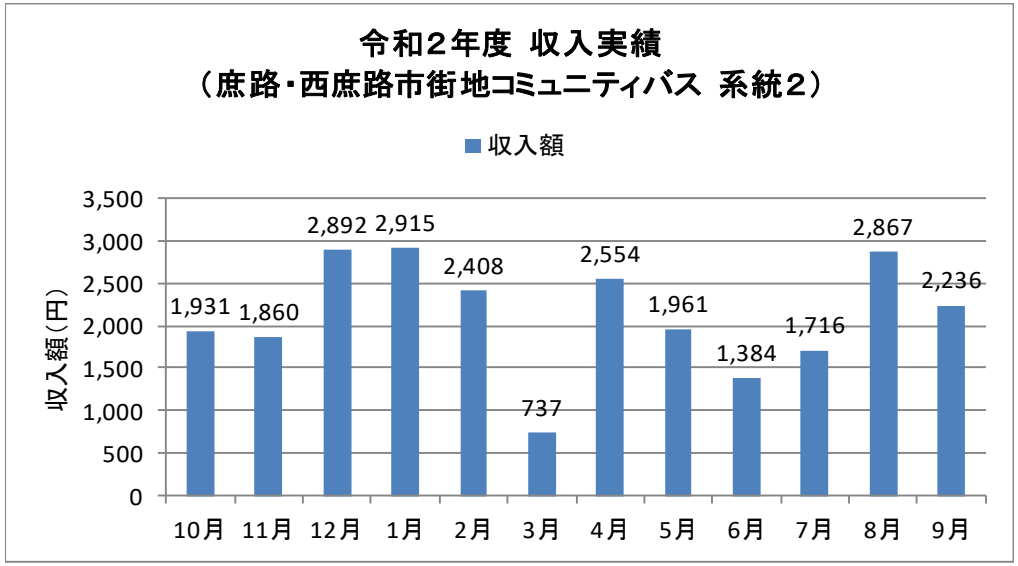
★庶路・西庶路(系統１)　R3 28,031円、R2 8,730円

★庶路・西庶路(系統2)　R3 39,440円、R2 25,461円









5）事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

6）事業の結果概要

市街地コミュニティバスの利用者数
　5,129人（令和3年度目標　11,800人）
市街地における公共交通利用圏域
　75.0%（令和3年度目標75.0%）
山間部における公共交通の利用者数
　1,915人（令和3年度目標1,935人）
バス交通への満足度
　　55%（令和3年度目標　55%）

　令和2年10月～令和3年9月までの利用者数は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による外出規制等により、市街地コミュニティバス利用者は、大幅に下回る結果となったが、山間部の利用者については、目標値をほぼ達成することができた。

7）事業の今後の改善点

＜R3年度＞
　今後は更なる利用促進策を検討するとともに、町民の生活交通（買い物や通院、通学等）を維持・確保し、地域間幹線系統等との接続による広域移動の確保を図るため、引き続き計画の検証を実施し、新年度へ向けたバス停の新設やルートの変更、ダイヤ改正の検討し、住民ニーズに沿った運行の検討を行う。

8）地方運輸局における二次評価結果

（令和4年度分と併せて評価）